

2006 年 3 月 9 日

BMW Motorrad World News 2006 Vol. 5

* 以下のニュースは BMW AG 発行のニュースレターの翻訳であり、日本市場への導入とは関係の無い場合があります。

- ◆ BMW Motorrad 主催のサーキット・トレーニングで、うまく軌道に乗ろう
- ◆ 視野が広がる冒険に出よう
- ◆ R90S の歴史的瞬間

【BMW Motorrad 主催のサーキット・トレーニングで、うまく軌道に乗ろう】

サーキットで走るのは、最高の気分を味わえると同時に、ロードライダーとしてのスキルも向上する。そこで BMW では、ライディング能力を向上させるだけでなく忘れられない経験ができるサーキット・トレーニングを開催している。



BMW のサーキット・エクスペリエンスは、ヨーロッパでも屈指のサーキットで開催される。それはザルツブルグ・リンク ホッケンハイム・リンク、過酷で有名なニュルブルグ・リンクだ。各サーキットは表情が異なり、初級者から上級者まで全てのライダーに素晴らしいチャレンジの機会を与えてくれる。

伝説、という言葉はもはや使い古しの感はあるが、ニュルブルグ・リンク北コース (Nordschleife) はこれ以外の言葉では語れないのも事実だ。全長 13 マイル

のサーキットにはコーナーが 73箇所もあり 世界で最も挑戦的なコースとしてその名をとどろかせている。

コースが完成した 1927 年から、F1 界のヒーロー、ジャッキー・スチュアートが“グリーン・ヘル（緑の悪魔）”と表現したこのコースを征服しようと、世界中から挑戦者がやって来る。2 泊の滞在の中でトレーニング受講者は、このサーキットの歴史に浸り BMW の経験豊かなインストラクターのトレーニングを受けることができる。

BMW のサーキット・トレーニングでは、ブレーキング、ライン取り、コーナーの正しい曲がり方のような基礎技術だけではなく 実際の各セクションをマスターする手助けをしてくれるこの知識こそが、実際に Nordschleife の Karusell や Hohe Acht といったコーナーに挑戦する際に非常に役に立つのだ。

オーストリアのザルツブルグ・リンクは、ザルツブルグの町にほど近い、美しい谷にひっそりと佇んでいる。一周 4.2km のサーキットは、高速セクションとアルプス風のタイトターンの組み合わせだ。一方、ドイツ中部に位置するホッケンハイム・リンクは一周 4.5km で、毎年ドイツ F1 世界選手権のホストを務める人気の高い現代的なサーキットだ。



ライディングの授業は、1 日目にクラスルームでバイクの物理学の講義を受け、2 日目にトラックで理論を実践する。

非常に経験豊かな BMW のインストラクター達は、正しいブレーキング、コーナリングのテクニックだけでなく、トラックをより速く、意のままに走るためのヒントをたっぷり教えてくれる。

もちろん、このようなサーキット・エクスペリエンスは、サーキット以外の道路でも決して無駄にはならない。全ての授業は、高速道路での走行にも当てはまり、さらに自分の限界やバイクの能力をより深く理解することで、上級ライダーに一步近づけるだろう。

ホッケンハイム・リンクの開催日は4月19日で費用は450ユーロ。一方ザルツブルグ・リンクの開催日は5月29日で費用は380ユーロ。両コース共、ホテル 1泊分、食事、飲物代が費用に含まれている。ニュルブルグ・リンクでのプログラムは5月、6月、7月を通して開催され、費用は995ユーロ。費用にはホテル 2泊分、食事と飲物代が含まれている。

BMWのポータルサイトからオンライン予約ができる。

http://www.bmw.de/uk/services/Fahrertraining/Trainingswelt/Motorrad/cont_motorrad_roadstrecken-training.html

【観野が広がる冒険に出よう】

仕事で世界の果てや、外国を探検しに行くことができる人は、実際何人いるだろう？これこそ、ヘルベルト・シュワルツの仕事上の特権だ。この大らかなドイツ人は、オフロードや冒険旅行の装備を専門に扱うバイクのアクセサリー会社、TOURTECH社の常務なのだ。



ヘルベルト・シュワルツにとって、自社製品を開発し、想定される条件下でテストを行うために“現地に”赴いている時ほど幸せな時はない。彼は、多くの自称世界旅行家が夢に描くだけの場所を実際に訪れ、現地で撮った素晴らしい映像を使い、TOURTECH社の年間カタログとDVDを製作している。

ヘルベルトの直近の旅行は、BMW R1200GS AdventureとTOURTECH

社製改造版 R1200GS、通称 Desierto によるメキシコ横断だ。今回の旅はドイツのテレビ番組 Motobike で取り上げられる予定で、パートナーとして、旅行経験豊富なテレビ司会者であり TOURTECH 社製バイクにも乗っているアストリッド・ノイデッカーが同行した。加えて、旅の全行程を記録する撮影班も一緒だった。

全ての計画が整い、チームも編成され、あとはバイクをメキシコ・シティに輸送するだけだった。しかし、ハリケーン・ウィルマが、何ヶ月にも及ぶ綿密な計画もろとも破壊してしまったのだ。

当初の予定ではメキシコ・シティに飛んで、バイクでユカタン、グアテマラ、ベリーズを経由してキューバに渡ることになっていたんだ」と、ヘルベルトは語る。「ところが、ハリケーンの影響でカンクーンの港が破壊されて、船でキューバに渡れなくなった。そこでバイクを空輸できないかと考えたけど、税関を通るのに1週間もかかると言われた。当初の計画を変更せざるを得なかった僕らは、一路クーパー渓谷を目指し、ロス・ムーチャス、バハを経由してカリフォルニアまで北上することにしたんだ」



しかし、このルート変更のおかげで旅が台無しになるどころか、これまで最高の旅になったとヘルベルトは語る。

素晴らしい旅だった。過去の旅では技術的なトラブルがあったけど、この旅では何の問題も無く、むしろ張り合いがなかったよ！ バイクも、7,000km のライディングのうち 3,000km にも及ぶオフロードを質の悪い燃料で耐えてくれた。標高が高かったので、夜は寒く昼は暑かったけど、何の問題もなかった。この種の旅にはパーカークトなバイクだね。」

旅では、ありとあらゆる道を走破した。クーパー渓谷の曲がりくねった、狭いダートトラックから、アメリカの広々とした高速道路まで走りぬけたが、バイクには何の問題もなく旅の始めでも終わりでも同様の走りを見せていた。



チームは荒野でのキャンプや星空の下で野宿をし、冒険の醍醐味を味わった。しかし時には、テントを張った日もあった。

「ガラガラヘビやサソリがいるような場所では、テントを使ったよ」とヘルベルトは説明する。寝袋の中に入ってきたら本当に嫌だからね！」

野宿では、湖や川で洗濯をするなど、利用できるものは何でも利用しなければならない。時には、太平洋さえ即席の風呂になった。しかし、週に1度は、ホテルに泊まるという贅沢も許した。

メキシコを訪れるのは今回が初めてだったヘルベルトとアストリッドは、現地の人々の親しみやすさやのんびりとした国民性に驚いた。「メキシコは本当に楽しかった。彼らがあそこまで親しみやすくて友好的だとは思ってなかったよ。現地に滞在している間、何のトラブルもなかった。現地の人たちと言えば、大抵は内気で遠巻きにしているものだけれど、メキシコでは僕らが困っているとすぐに、出来る限りのことをしてくれた。みんな僕らに興味津々で、たくさん質問されたよ」

「アフリカでは立ち止まると集団にもみぐちやにされることがあったけど、メキシコではなかった」とヘルベルトは語る。「メキシコは、例えて言うならアフリカとアメリカの中間だね。アメリカみたいに近代的で巨大なビルがあるかと思えば、田舎では昔ながらの生活を送っている人たちがいるんだ」

友好的な歓迎に感謝したのはアストリッドも同じだ。「この旅で一番記憶に残っているのは、誰もが友好的だったってことよ。シャイなんだろうけど、信じられないほど親しみやすいし、色々と助けてくれたわ」



チームは現地の小さな店で食材を調達し、バイクの燃料を使って自分達で調理をした。万が一のために3日分の保存食も持つて行ったので食べる物にはさほど困らなかったが、特にクーパー渓谷のような人里離れた場所では、燃料の問題があった。ガソリン・スタンドには少しの燃料しか置いてないにともあった。しかし33Lという大きなタンクを備えているAdventureは、600Kmは走れるので問題なかった。Desiertoの方は、

Adventureのタンクから燃料をもらうことがしばしばだった。

人里離れているにもかかわらず、いや、人里離れているせいか、ヘルベルトはこの旅のお気に入りの場所としてクーパー渓谷を挙げた。素晴らしい景色だったよ。その大きさや強

烈な印象はグランド・キャニオンに匹敵する。1,500km以上にわたって蛇のようく曲がりくねった山道はチャレンジのしがいがあるよ。砂の中に埋もれないように時速60km以上を保たなければならなかつた場所もあつたしね」



アストリッドも渓谷への挑戦とその景色に魅了された。『バイクで走るには最高の場所だったわ。ライディング技術はかなり必要だけど、景色はこの世のものとは思えないくらい素晴らしいだった。今回の旅で私の気に入りの場所を挙げるとしたら、間違いなくクーパー渓谷だわ』

この旅はただのライディングと言う以上に、魅力的な国を探検する機会でもあった。TOURTECH社製バイクのメキシコの輸入代理店であるカルロス・ウェイデは、彼らにロス・ポザスを訪れるよう勧めた。そこ

はイギリス人アーティストのエドワード・ジェームスが驚くべき彫刻のコレクションを製作した地で、メキシコのシエラ・ゴルダ山脈奥深くの熱帯雨林にあつた。そこには以前ホテルがあったが、数年前に休業してしまつた。しかし、ヘルベルトはなんとかそこで一泊できるよう管理人を説得した。「土砂降りの雨の中、奇妙な彫刻に囲まれて、誰もいないホテルに泊まるのはかなり不思議な感覚だったよ」と、彼は回想する。

『古い銀山を改装したラ・ミーナというディスコにも行ったよ。銀山の入り口から奥には小さな電車が運んでくれて、素晴らしい場所だったよ。16歳から60歳まで、あらゆる年齢層の人がそこにいて、賑やかで親しみやすい空気だった。現地の人達は僕らが何者で、なぜここにいるのか知りたがり、みんなとても興味津々だった。その地域では観光客などほとんどいないし、僕らが標準的なメキシコ人より背が高かったから、ちょっと目立つたんだ』

ヘルベルトが集めた写真や映像は1000を超えて、2006年のTOURTECH社カタログやDVDを作ることに十分な量が集まって非常に満足している。「このDVDの映像は素晴らしい画面に釘付けになるよ。そしてまたバイクに乗りたくなる。今回の旅は最高に楽しかったってことが、これで伝わると思う」

秋に発行予定のカタログの製作があるので、ヘルベルトは次の旅までそんなに長く待つ必要がない。冒険の計画は既に進行中で、ベトナムとアラスカが現在の候補に挙がっている。彼らが行くところはどこでも、景色は常に最高で、旅の話を聞くと、自分も冒険に出たいという気分になる。

TOURTECH社のPDF版カタログは、www.touratech.comで入手できる。DVD版はウェブサイト、またはTOURTECH社の販売代理店で入手可能。詳細はウェブサイトで確認できる。PDF版カタログ及びDVDはドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語版が用意されている。

R90Sの歴史的瞬間】

BMW R90S が初のスーパーバイクレースで優勝して、スポーツバイクとしての地位を確立し、BMWのレース史における真のアイコンとなってから既に 30 年が過ぎた。



1975 年、アメリカのレース理事会 (AMA) は、1976 年のシーズンから“スーパーバイク”というカテゴリを新たに設けると発表した。アメリカの BMW 輸入業者、バトラー & スミス (B&S) は即座にこの新しいチャンピオンシップに参加しようと決め、BMW のバイクの中でも最もスポーティーな R90S でエントリーした。

R90S は、BMW の 50 周年記念として 1973 年に発売された。900cc のマシンは BMW が製造する中でも最速で最もパワーのあるバイクであり、ノーズ・フェアリングを備えた初の量産バイクでもあった。実際 R90S までは、最大 750cc のマシンまでしかなかったのだ。

1975 年 10 月、3 台の BMW R90S が、チューニングスペシャリストのウド・ギエトの元に届けられた。彼はそのままシーズン開始時にチームの監督に抜擢された。67 馬力を生み出すエンジンの排気量は 1,000cc に拡大され、より大きなキャブレターと高性能カムシャフトを追加し、シリンドーヘッドと排気システムを改造してより多くのパワーを生み出した。シーズン開始までに、R90S のレース仕様車は、9,200rpm で驚異的な 102 馬力を生んだのだ。

バンク角と操縦性を改善するために、エンジンがわずかに前に動かされた。現在のスーパーバイクレーサーと同様、R90S の外観はノーマルにできるだけ近づけ、シルバーとオレンジのツートン塗装が施されたレース用バイクは、市販車と見間違うほどだった。

シーズン初のレース (1976 年 3 月 5 日、デイトナ 50 マイルレース) では、湿気が高すぎて点火システムに影響を及ぼし、テスト走行が出来なかったという事実にもかかわらず、ライ

ダーのレグ・プリッドモア、ゲリー・フィッシャー、スティーブ・マックローリンがスタートラインに並んだ。



レースでは BMW の 3 人組が他を圧倒する走りを見せ、わずか 3 周で BMW の勝利が確定となった。問題はどの BMW が優勝するか、それだけだった。その時、優勝が確定視されていたフィッシャーに悪夢が襲った。最後から 2 周目のラップで、ギアが抜け落ち、エンジンの回転速度が上がりすぎてロッカー・アームが壊れ、チェッカー・フラッグの手前でプリッドモアにリードを許してしまったのだ。

そしてこれがマックローリンの不屈

の精神に火をつけた。最後の瞬間、彼はプリッドモアを抜き去り、スーパーバイクの歴史を塗り替えるチェッカー・フラッグをトップで走りぬけたのだ。



プリッドモアは、後に雪辱を果たす機会に恵まれた。彼はリバーサイドとラグナ・セカの 2 つのチャンピオンシップで優勝し、BMW を勝利に導いた。シーズン終了後、B&S はレースから手を引き、この 3 台のバイクは BMW のディーラーに売却された。80 年代前半、マックローリンのバイクがカリフォルニア・ベーカーズフィールドの BMW ディーラーの裏手で廃棄されていたのを見つけた元 B&S セールスマネージャーのブルース・アームストロングは、

ウド・ギエトの手を借りてレストアを試みた。

アームストロングはその後数年にわたり、カリフォルニアの自宅近くの道路でバイクを走らせ、バイクのイベントにも多数参加した。そして 2004 年、BMW の栄光の歴史を飾るにふさわしい場所である、BMW モービル・トラディション・ミュージアムにこのバイクを寄贈した。2007 年に新装オープン予定の BMW ミュージアム (ミュンヘン) には、完全に修復されたバイクが展示される予定だ。